

第7版 バージョン 5.3 準拠 2020 年7月現在

※ wivia は、株式会社内田洋行の日本における登録商標です。

※ その他の製品名、システム名などは、一般に各社の登録商標または商標です。

本書では、wivia 5のファームウェア、バージョン 5.xの wivia アプリケーション(以降「アプリケー ション I)、バージョン 2.x の wivia Presenter アプリケーション (以降 [wivia Presenter I) について、 以前との変更点、既知の問題、その他クイックマニュアル・取扱説明書に記載していない情報を記載し ます。

■ 準拠バージョン

本書の情報は、以下のバージョン(以降「本バージョン」)に基づきます。

- ファームウェア v5.3.0.11
- Windows 版アプリケーション v5.3.0.19
- Mac版アプリケーション v5.3.0.20
- iOS版 wivia Presenter v2.0.5
- Android 版 wivia Presenter v2.1.0.0

## ■ 互換性

- 本バージョンのファームウェアは、wivia 5(WV-51)の本体(以降「本機」)へ適用できます。
- 本バージョンのアプリケーション・wivia Presenter は、wivia 3 (WV-BG-3)・wivia 4 • (WV-BG-4)・wivia 5 (WV-51)の本体に接続できます。<sup>1</sup>

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> これ以前の機種の wivia 本体には、対応する OS の端末で、対応するバージョンのアプリケーションをお使いください。

# ■ 対応 OS

本バージョンのアプリケーションの対応 OS は以下のとおりです。

- Windows 10(バージョン 1903 で動作確認)、Windows 8.1
- macOS 10.15 Catalina 10.14 Mojave

本バージョンの wivia Presenter およびモバイル OS からのミラーリング機能の対応 OS は以下のとおりです。

- iOS 12~13、iPadOS 13
- Android 9~10

上記の対応 OS は今後変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。

#### ■ 機能の追加・変更・削除

本バージョンでの機能の追加・変更・削除は以下のとおりです。

- ロ ファームウェア
- 1. 画面・パスコード設定ページの解像度の選択肢に「800p(WXGA)」を追加しました。
- 画面・パスコード設定ページに、Wi-Fi 名と IP アドレスをそれぞれ待機画面上に表示するか選択する設定項目を追加しました。チェックを外した項目は非表示になります。
- 3. ネットワーク設定ページに「本機を経由した機器検出」の項目を追加しました。この設定を既定値の「通過」から「遮断」に変更すると、本機が有線LANで既存ネットワークに接続され、ブリッジモードに設定されている場合に、本機のアクセスポイント機能に接続した端末で既存ネットワーク上の他の wivia を自動検出するのを防ぐことができます。4
- 詳細な動作の設定ページに、本機のトップページでのアプリケーションのダウンロードと WebSlidesへのログインを無効化する設定項目を追加しました。
- 5. 本バージョン以上の Windows 版・Mac 版アプリケーションを使用した場合の、同一サブネット内 での自動検出に対する動作を改善しました。<sup>5</sup>
- ロ Windows 版・Mac 版アプリケーション
- Windows 版で拡張デスクトップを投影する際に必要な「拡張画面ドライバー」を v2.1.0.2 に更新し、Windows 10 に対応しました。<sup>7</sup>
- 2. Mac 版アプリケーションを 64 ビット化し、macOS 10.15 Catalina に対応しました。
- 3. アプリケーション起動時・機器リスト更新時の自動検出処理に掛かる時間を短縮しました。
- 接続中・投影中の機器との接続が切断した際のメッセージ画面に「再接続」および「再接続して投 影開始」ボタンを追加しました。
- 機器リストを上下にスワイプする操作でスクロールできるようにしました。また、お気に入りリストとの切換ボタンを削除しました<sup>8</sup>。
- 6. 接続操作・投影開始操作の後に、機器リストが自動的に折りたたまれないようにしました。
- 7. ウィンドウ全体の描画サイズを、OS側のスケーリング設定に連動して拡大するようにしました。
- 8. 設定画面の「一般」タブに次の各項目を追加しました。

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> IP アドレスを手動入力して接続したり、お気に入りに登録済の機器に接続することは可能です。なお、「遮断」に設定すると、AirPlay・ Google Cast での画面投影と、wivia 4・wivia 3 への動画ファイル再生も行えなくなります。

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> v5.2 以下のアプリケーションでの自動検出に対しての効果は期待できません。

<sup>&</sup>lt;sup>7</sup> このバージョンの拡張画面ドライバーは本バージョン以上のアプリケーションとの組み合わせでのみ動作します。また、以前のバー ジョンの拡張画面ドライバーは本バージョン以上のアプリケーションとの組み合わせでは動作しません。

<sup>&</sup>lt;sup>8</sup>機器リストを左右にスワイプまたはドラッグすると、表示をお気に入りリストに切り換えられます。

- 投影した画面のブラウザーからの閲覧を許可:チェックを外すと、当該端末から投影した画面 を他の利用者が WebSlides 機能で閲覧できなくなります。
- 投影先の機器からのリモート操作を許可:チェックを外すと、当該端末から投影中に、投影先の
  の wivia に接続された USB 操作機器(マウス、キーボード、タッチパネル、インタラクティブプロジェクター等)で当該端末をリモート操作できなくなります。
- 投影中に画面上に枠を表示:チェックを入れると、投影中にデスクトップの四辺に黄色の枠が 表示されます。
- 9. 設定画面の「機器リスト」タブを「お気に入り」タブに改名し、起動時のリストの選択項目を削除 しました。
- 10. 設定画面の「拡張」タブを「詳細」タブに改名し、Windows 10 の端末で拡張モードが選択できる ようにしました。
- 11. 設定画面の「ホットキー」タブに「自動レイアウト/全画面投影」の項目を追加しました。
- 12. Mac版の PresentSence機能をアプリケーションに内蔵し、起動時に最も近いと判断した機器をポップアップ表示するように変更しました。
- 13. お気に入り定義ファイル<sup>9</sup>の書式を変更しました。以前のバージョン 5.x からアップデートした場 合は、初回起動時に自動的に書式が変換されます。<sup>10</sup>
- 14. Windows 版の設定の保存先を、設定ファイルからレジストリに変更しました。また、Mac 版の設定が保存される plist ファイルの場所と名前を変更しました。いずれも、以前のバージョン 5.x からアップデートした場合は、初回起動時に自動的に以前の設定値が引き継がれます。<sup>11</sup>
- 15. wivia 3・4 への動画ファイル再生機能で、選択できるファイル形式を MP4 のみに変更しました。
- 16. GUI の外観・文字列を一部変更しました。

<sup>&</sup>lt;sup>9</sup> Windows 版では%localappdata%¥favorite.xml に保存されます。Mac 版では、以前のバージョンでは~/Library/Application Support/Barco/wivia/favorite.xml に保存されていましたが、本バージョンからは~/Library/Application Support/wivia/favorite.xml に保存されます。

<sup>&</sup>lt;sup>10</sup>元の favorite.xml は、同じフォルダーで favorite\_backup.xml に改名されて残ります。

<sup>&</sup>lt;sup>11</sup> 元の設定ファイルは、同じフォルダーでファイル名の末尾(拡張子の前)に"\_backup"が付加されて残ります。このため、本バージョン以上のアプリケーションを起動した後に以前のバージョンのアプリケーションを起動すると既定値の設定で動作します。

■ 問題の修正・品質の改善

本バージョンでの問題の修正・品質の改善は以下のとおりです。

- ロ ファームウェア
- 1. 設定を初期化する際、一部の設定値が初期化されずに残る問題を改善しました。<sup>15</sup>
- 2. ごくまれに、設定値の大半が予期せず初期化されることがある問題を改善しました。
- 3. Web ページの文字列や動作を一部修正しました。
- ロ Windows 版アプリケーション
- 「拡張画面ドライバー」を v2.1.0.2 に更新し、Windows 10 で拡張モードを選択できない問題を 改善しました。<sup>16</sup>
- 投影中にマウスカーソルをデスクトップの右端および下端に移動させると、投影画面上でその座標 が白く点滅し続ける問題を修正しました。
- 3. 投影中に端末の画面を回転させると、アプリケーションが予期せず終了する問題を修正しました。
- 複数の端末から複数の wivia へ接続中・投影中に、アプリケーションが予期せず終了することがある問題を修正しました。
- 5. USB シミュレーション (UoIP) モードを、ホットキーやコマンドラインで投影された際にも動作 するようにしました。<sup>17</sup>
- 6. 全体的な動作の安定性を改善しました。
- ロ Mac版アプリケーション
- 1. アプリケーションを64ビット化し、macOS 10.15 Catalina で起動できない問題を修正しました。

<sup>&</sup>lt;sup>15</sup> 本機の背面のリセットスイッチの長押しで初期化する場合は、背景設定ページに追加登録された画像は削除されません。これらの画像は別途削除するか、管理者ページから初期化してください。

<sup>&</sup>lt;sup>16</sup> 端末の機種や環境などによっては、拡張画面ドライバーにより問題が発生したり、拡張画面ドライバーをインストールしても拡張モードが選択できないことがあります。

<sup>&</sup>lt;sup>17</sup>通常(UMT)モードとの切換をコマンドライン引数で行うことはできません。アプリケーションの設定値に準じて動作します。

### ■ 既知の問題

本バージョンの公開時点で明らかになっている主な問題と、その回避方法は以下のとおりです。

- 以前のバージョン 5.xの Windows 版アプリケーションがインストールされている端末に本バージョンを上書きインストールしようとすると、「この製品をアンインストールしますか?」というメッセージが表示されます。これは本バージョンのインストールに先立って既存のバージョン 5.xがアンインストールされることの確認ですので、処理を続けるには「はい」を選択してください。
- 2. アプリケーションの使用中に、同一サブネット内の本機が自動検出されなくなることがあります。 この場合は、IP アドレスまたは機器名を直接入力して接続するか、お使いの端末と本機を再起動し てください。<sup>19</sup>
- 3. Windows 版アプリケーションでの投影中に端末の画面を回転させると、投影画面の縦横比が崩れ ます。この場合は一度投影を停止して再開してください。
- Windows 版アプリケーションをタッチパネルで操作する際、レイアウト選択ボタンで開かれるサ ブメニューがすぐに消えてしまうことがあります。この場合、ボタンをダブルタップするか、マウ スやトラックパッドでクリックすることで問題を回避できます。
- 5. Windows 版アプリケーションで、複数台の本機への投影中に複製モード/拡張モードの設定を変更 すると、モードの切換が一部の機器にしか反映されないことがあります。この場合は、設定変更の 前に投影を停止するか、設定変更後に投影を一度停止して再開してください。
- 6. Windows 版アプリケーションを一度終了した後に再度起動しようとした際、まれに正しく起動されないことがあります。この場合は、タスクマネージャーのバックグラウンドプロセスの一覧から wivia.exe を終了してください。
- Windows 10 の一部の環境では、リモート USB ドライバーが正しく認識されず、USB シミュレー ションモードでの USB 操作機器との接続に失敗することがあります。この場合は、通常(UMT) モードに変更するか、他の端末をお使いください。
- Windows 版アプリケーションの設定画面で「常に最前面に表示」の値を変更すると、タスクバー 上の wivia アプリケーションのアイコンの表示が消えます。一度アプリケーションを終了して再度 起動すると、再びタスクバーにアイコンが表示されます。
- Windows 版アプリケーションで各ボタンなどにカーソルを合わせると表示されるツールチップが、 カーソルが離れた後も表示され続けることがあります。この場合は、ツールチップが表示されたボ タンなどにカーソルを再度合わせ、すぐにずらすことでツールチップが消えます。
- Windows 版アプリケーションをコマンドラインで実行する際、引数の指定方法によっては、意図 通りの結果にならなかったり、アプリケーションや本機の動作が不安定になることがあります。詳 しくはお問い合わせください。

<sup>19</sup> あらかじめ使用する機器のアドレスをお気に入りに登録しておくことを推奨します。

- 11. タッチパネルディスプレイやインタラクティブプロジェクターを接続した本機に USB シミュレー ションモードで投影を行った際、他の端末からも投影されて自動レイアウトに切り換わると、投影 画面上での操作が正しい座標に反映されなくなります。正しい座標で操作するには全画面投影に切 り換えてください。
- 本バージョンの Mac 版アプリケーションは、複数の wivia 3・4 には接続できません。そのような
  場合には、現在の機器から切断して接続先を切り換えるかの確認メッセージが表示されます。<sup>21</sup>
- 13. 本バージョンの Mac 版アプリケーションは、wivia 3・4 への動画ファイル再生を行おうとすると、 エラーメッセージが表示されて失敗します。
- 14. 本バージョンの Mac 版アプリケーションでは、日本語文字列が不自然なフォントで表示されることがあります。
- 15. アプリケーションで複数の wivia への投影中に複製モード/拡張モードの設定値を変更すると、一 部の機器に対して正しくモードが切り換わらないことがあります。当該設定の変更は投影を停止し てから行ってください。
- 16. 既存のお気に入り項目と機器名が同じでアドレスが異なる機器が機器リストに表示される際、当該 機器がお気に入りに登録されていなくても、お気に入りを示す星型のマークが表示されます。
- 17. アプリケーションでお気に入りリストを表示中に、お気に入りに未登録の機器のアドレスを直接入 力して接続した場合は、当該機器がリストに表示されません。通常の機器リストに切り換えると表 示されます。
- 18. 端末の画面解像度によっては、元の画面と異なるアスペクト比の映像が表示装置に投影されること があります。この場合は、端末側を他の解像度に切り換えてお使いください。
- 19. 端末によっては、アプリケーションがシステムの音声をキャプチャーできず、端末の音声が本機に 送信されないことがあります。一部の Windows 環境では、「サウンド」コントロールパネルで再 生デバイスのプロパティ画面を開き、「このデバイスでオーディオのハードウェアアクセラレータ を許可する」をオフに設定する<sup>23</sup>と解決することがあります。
- 20. アプリケーションや wivia Presenter からの投影を停止した際に、まれに表示装置に静止画が出力 されたままの状態になることがあります。この場合は、当該端末から再度投影開始と停止を行うか、 本機を再起動してください。
- 21. iOS 端末からの画面投影機能は、画面全体をミラーリングするモードにのみ対応しており、動画などのコンテンツを単独でストリーミングするモードには対応しておりません。投影中にストリーミングモードに切り替わった場合は、投影が中断されます。投影を再開するには、ストリーミング中のコンテンツを終了し、端末のコントロールセンターで再度投影操作を行ってください。

<sup>&</sup>lt;sup>21</sup> ただし、wivia 5 と wivia 3・4 が混在する場合は、複数の wivia 3・4 へ接続できます。

<sup>&</sup>lt;sup>23</sup> この項目は端末の機種によっては表示されません。また、オフに設定しても問題が解決しないことがあります。例えば、Atom CPU を搭載する Windows 10 1709 以降の富士通製端末ではオフにしても問題が発生し続けます。

- 22. iOS 版の wivia Presenter の wivia 3・4 への動画ファイル再生機能は、一時停止中に他のファイルを選択すると正しく動作しなくなります。ファイルの切換は一時停止中以外に行ってください。
- 23. Android 版の wivia Presenter の画面ミラーリング機能を使用すると、端末のマイクが集音した音 声が本機に送信され、ハウリングの原因となることがあります。この場合は、wivia Presenter の 設定画面で Audio Mirroring をオフに設定するか、Google Cast による画面ミラーリングをお使い ください。
- 24. スタンドアロン(既存ネットワークに接続せず単体)で動作中の本機に、3G/4G 通信と Wi-Fi を両 方利用できるスマートフォンやタブレット端末を Wi-Fi で接続した場合、当該端末から 3G/4G 通 信によるインターネットへのアクセスは行えません。なお、当該端末が iOS の場合、本機の本体設 定のネットワーク設定ページで DHCP サーバーの DNS サーバーの値を"0.0.0.0"に設定すると、 3G/4G でインターネットへアクセスできることがあります。<sup>24</sup>
- 本機に wivia Button を USB 接続してペアリングする際、画面にペアリング完了メッセージが表示 された直後に USB ケーブルを抜くと、wivia Button へのペアリング情報の書き込みが完了しません。メッセージが表示されて 10 秒程度待ってからケーブルを抜いてください。
- 26. 本機の本体設定で機器名に16文字以上を設定しようとすると「16文字以下にする必要があります。」 というメッセージが表示されますが、機器名に設定できるのは半角英数字15文字以内です。
- 27. 機器名(画面名)に全角文字を含む 16 バイト<sup>25</sup>の文字列が設定された wivia 3・4 は、アプリケー ションの機器リスト上で機器名の末尾に不要な記号が表示されます。機器名の識別に支障はありま せんが、この問題を回避するには、15 バイト以下の機器名を設定してください。
- 28. アプリケーションが wivia 3・4 を自動検出した際、または wivia 3・4 に接続した際、その wivia の機器名(画面名)ではなく SSID が機器リストに表示されます。運用上支障する場合は、当該 wivia の SSID に機器名(画面名)と同じ値を設定してください。
- 29. 本機のアクセスポイント機能に 32 文字の SSID を設定すると、本機が意図しない動作をすること があります。31 文字以下の SSID を設定してお使いください。
- 30.本機のアクセスポイント機能に複数の端末を接続し、いずれかの端末との間で大量のデータ転送が 行われると、他の端末との通信や接続が一時的に不安定になることがあります。この場合は、全体 の通信負荷が下がってから再度試みてください。
- 31. 本機の NAT モードでの無線アクセスポイント機能側のネットワークは、サブネットマスクが 24 ビットの構成でのみ正しく動作します。ホスト IP アドレスと DHCP サーバー開始/終了アドレスの第 1~第 3 オクテットに異なる値を設定したり、サブネットマスクに 255.255.255.0 以外の値を設定すると、意図しない動作をすることがあります。

<sup>&</sup>lt;sup>24</sup> 今後の本機または iOS の仕様変更により挙動が変わる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

<sup>&</sup>lt;sup>25</sup> wivia 3・4 では全角1文字を3バイトとして扱うため、例えば、全角5文字と半角1文字や、全角1文字と半角13文字などの機器名が該当します。

- 32. 本機の IP アドレスが自動取得の設定の場合に DHCP サーバーのないネットワークに接続して起動 すると、インジケーターLED が青色にならず赤色点灯のまま動作し、表示された IP アドレスで通 信できないことがあります。DHCP サーバーのないネットワークに接続する場合は、あらかじめ本 体設定で IP アドレスを手動設定してください。
- 33. 本機の動作中は、WAN 側 IP アドレスが手動設定されていても、DHCP サーバーへのアドレス割当 要求(DHCPDISCOVER メッセージ)が定期的に送信されます。この挙動によって DHCP の運用 に影響がある場合は、DHCP サーバーに本機への固定割当アドレスを設定してください。
- 34. 本機のステーション機能を有効に設定し、WAN 側 IP アドレスを手動設定した場合、再起動後に本 機が設定された IP アドレスで動作しないことがあります。<sup>26</sup>
- 35.本機のアクセスポイント機能とステーション機能を共に有効に設定し、WAN 側 IP アドレスを手動 設定した場合、本機のアクセスポイント側に接続した端末は本機のステーション機能を介して既存 ネットワーク側へアクセスできません<sup>27</sup>。この構成でアクセスポイント側の端末が既存ネットワー ク側にアクセスできるようにするには、WAN 側 IP アドレスを自動設定にしてください。
- 36. 一部のブラウザーでは、本機の Web ページを初めて表示する際、端末の言語設定にかかわらず英語のページが表示されます。必要に応じて、ページ内の言語選択メニューで日本語を選択してください。
- WebSlides ページに Chrome ブラウザーでアクセスする際、OS やブラウザーのバージョンによってはログインに失敗し続けることがあります。この場合はブラウザーをアップデートして再度試すか、別のブラウザーをお使いください。
- 38.本機が高省電力スタンバイ状態に入る際や高省電力スタンバイ状態から復帰する際、表示装置への 出力が一時的に途絶えたり、待機画面に表示される時刻がずれたり、本機が再起動することがあり ます。
- 39. 本機の日付と時刻の設定ページで NTP サーバーの値が空欄に設定された場合は、初期値のサーバー(pool.ntp.org) へ問い合わせが行われます。問い合わせを行わないようにするには、"0.0.0.0"
  を設定<sup>28</sup>してください。
- 40. 本機の待機画面のステータス領域のチャンネル表示および時刻表示がまれに実際と異なる情報を 表示することがあります。この場合は、本機を再起動してください。
- 41. 本機の起動時に NTP サーバーへの問い合わせに失敗した場合は、本体設定の日付と時刻のページ で実際と異なる日時が表示されます。<sup>29</sup>

<sup>&</sup>lt;sup>26</sup> この場合、ネットワーク設定ページ下部の DHCP サーバー部分で、ホスト IP アドレスと DHCP 割当開始・終了アドレスに WAN 側 IP アドレスと同じ値を、サブネットマスクと DNS サーバーにページ上部の同名の入力欄と同じ値を設定し再起動することで、設定した IP アドレスで動作します。その後は、DHCP サーバーの設定値を変更しても意図通り動作します。

<sup>27</sup> 本機のアクセスポイント側に接続した端末・既存ネットワーク側に接続した端末ともに、本機にアクセスし投影することは可能です。

<sup>&</sup>lt;sup>28</sup> この場合、待機画面下部に正しい時刻が表示されなくなります。NTP によるインターネットアクセスを抑制したい場合には、ネット ワーク内に設置されている NTP サーバーのアドレスを設定することを推奨します。

<sup>&</sup>lt;sup>29</sup> その後アプリケーションで接続した端末から時刻情報を取得した場合は、実際の時刻が表示されます。

- 42. 本機の背面のリセットスイッチの長押しで設定を初期化する際、背景設定ページに追加登録された 画像は削除されません。これらの画像は別途削除してください。
- 43. 本機の背面のリセットスイッチの長押し、または本機の Web ページから設定を初期化する際、ド メイン名と、無線ステーション機能の暗号化方式を「802.1X EAP」にした場合に表示される EAP Encryption の各設定項目は初期化されません。これらの値は別途消去または上書きを行ってくだ さい。
- 44.本機の日付と時刻の設定ページでタイムゾーンを変更した場合、本機の背面のリセットスイッチの 長押し、または本機のWebページから設定を初期化した後、待機画面のステータス領域の時刻が 初期化前のタイムゾーンで表示されます<sup>30</sup>。初期値のタイムゾーン(UTC+9:00)で表示するには、 一度設定値を変更してから再度戻してください。
- 45. 本機の動作中、まれに本機の Web ページが正しく表示されなくなることがあります。この場合は本機の電源を入れ直してください。
- 46. 状況によっては、使用中にアプリケーションや本機の動作が不安定になることがあります。この場合は、アプリケーションと本機を再起動してから再度お使いください。

#### ■ 制限事項

本機の設置・使用、本バージョンの適用・使用にあたっては、以下の事項にご留意ください。

- macOS 10.13.4 以上の環境では、Syphon virtual screen をインストールすると、各種グラフィック描画に支障をきたしたり、OS の予期せぬ再起動が発生することがあります。該当する環境では、拡張モードや Syphon virtual screen を使用しないでください。<sup>31</sup>
- ファームウェアを <u>v5.0.00.123 または v5.0.03.125 から v5.1.11.53 以降へ更新する際</u>、本機 が有線 LAN でネットワークに接続されていてアクセスポイント機能が有効な場合、<u>更新前後で本</u> 機の動作がブリッジモードから NAT モードに変わり、アクセスポイント側の IP アドレスなどのネ <u>ットワーク構成が変化します</u>。該当する構成の場合は、更新後に本機のネットワーク設定をご確認 ください。
- ファームウェアを v5.1.45.91<sup>32</sup>から更新する際<sup>33</sup>、MAC アドレスフィルタリング設定ページに登 録された MAC アドレス項目の値が保持されず失われます<sup>34</sup>。当該機能をお使いの場合は、更新前 にあらかじめエクスポート機能でバックアップを取り、更新後に再度項目を登録してください。

<sup>30</sup> 該当するのは待機画面に表示される時刻のみで、設定ページに表示される現在時刻は初期値のタイムゾーンに戻ります。

<sup>&</sup>lt;sup>31</sup> Syphon virtual screen の修正が見込まれないことから、macOS 10.13.4 以上では拡張モードはサポートされません。なお、AirPlay ミラーリングで本機を検出できる環境・構成の場合は、アプリケーションの代わりに AirPlay で接続・投影することで、本機に拡張デ

スクトップを投影できる可能性があります。

<sup>&</sup>lt;sup>32</sup> これ以外の v5.2.38.15 未満で MAC アドレスフィルタリング機能を搭載したバージョンも含まれます。

- DHCP サーバー機能は、ネットワーク設定が NAT モードの場合に自動的に有効に、ブリッジモードの場合に自動的に無効になります。NAT モードの場合に無効にしたり、ブリッジモードの場合に 有効にすることはできません。
- 5. 無線アクセスポイント機能は、ネットワーク設定がブリッジモードで、IP アドレスが手動設定の場合、本機が有線 LAN でネットワークに接続されていないと通信できません。有線 LAN を接続しない構成の場合は、NAT モードでお使いください。
- 無線ステーション機能は、ネットワーク設定が NAT モードの場合のみ有効に設定できます。アク セスポイント機能とステーション機能を同時に有効にする場合は、NAT モードである必要があるた め、アクセスポイント側へは常に DHCP サーバー機能が動作します。
- 無線ステーション機能は、周囲の電波状況や接続先のアクセスポイントとの組み合わせによっては、 接続に失敗すること、または動作中に接続が不安定になることがあります。このような場合は本機 を再起動するか、本機を有線 LAN でネットワークに接続してください。また、当該機能を前提と した設置にあたっては、あらかじめ実環境で接続性・安定性を評価してください。
- v5.1.11.53 で本体設定の詳細な動作設定ページに追加された「本機を PresentSense で検出可能 にする」の値は、初期値は有効ですが、ファームウェアを v5.0.03.125 以前から v5.1.11.53 以降 へ更新した際には無効になることがあります。当該機能を使用する場合は、アップデート後に設定 値を確認し、必要に応じ設定を変更してください。
- 9. Windows 版アプリケーションは、Windows 10のSモードと Windows RT では動作しません。
- 10. v5.0.0.26 未満のバージョン 5.x の Windows 版アプリケーションの設定ファイルは、保存場所が 異なるため、v5.0.0.26 以上へは引き継がれません。<sup>35</sup>
- 11. バージョン 5.3 以降のアプリケーションでは、バージョン 5.2 以前と設定ファイルやお気に入り定 義ファイルの保存場所や仕様が異なります。このため、初回起動時に以前のファイルを検出した場 合は自動的に新仕様に移行され、元のファイルは改名されて残ります。<sup>36</sup>
- 12. バージョン 3.x 以前の Windows 版アプリケーションの設定情報は、設定ファイルの仕様が異なる ため、バージョン 5.x へは引き継がれません。
- 13. v5.0.0.26 よりも前の Windows 版アプリケーションは、以降のバージョンが上書きインストール された後もレジストリにインストール項目のエントリが残ります。<sup>37</sup>

- を、"%localappdata%¥wivia 5"フォルダーに移動またはコピーしてください。
- <sup>36</sup> このため、v5.3.0.19 以降とそれ以前の簡易版アプリケーションや Mac 版アプリケーションを同じ環境で使用することは、新旧の設定ファイルやお気に入り定義ファイルの整合性が崩れるため推奨されません。また、バージョン 5.2 以前でエクスポートしたお気に入りをバージョン 5.3 以降でインポートした場合、一度アプリケーションを終了するまで機器リストに反映されません。

<sup>&</sup>lt;sup>33</sup> 主に v5.2.38.15 以降へ更新する場合が想定されますが、既に v5.1.45.91 の本機に v5.1.45.91 を再適用する場合も含まれます。

<sup>&</sup>lt;sup>34</sup> MAC アドレスフィルタリング機能自体の有効/無効の値は保持されるため、当該設定が有効な場合、ファームウェア更新後は本機の アクセスポイント側から通信できなくなります。

<sup>&</sup>lt;sup>35</sup> 設定値を引き継ぐには、"%localappdata%¥wivia"フォルダーにある favorite.xml、UserName.txt、wivia.ini

<sup>37</sup> そのままでも端末の動作に支障はありませんが、不要なエントリを残したくない場合は、古いバージョンをアンインストールしてか

- 14. 既にインストール済のバージョンよりも古いバージョンの Windows 版アプリケーションをインストールする(ダウングレードする)場合には、インストール済のバージョンをアンインストールしてから古いバージョンをインストールしてください。上書きインストールでダウングレードすると、アプリケーションが正しく動作しなくなることがあります。
- 15. アプリケーションや拡張表示ドライバー、Syphon virtual screen が生成する拡張デスクトップは、 選択・変更できる解像度が限られ、端末のメインディスプレイや本機に接続された表示装置と同じ 解像度を選択できないことがあります。
- 16. v5.2.0.11 以降の Windows 版アプリケーションでは、「接続ボタンで投影開始」の設定が有効な場合、コマンドラインで実行する際にも"-c"(接続)オプションで投影が開始されます。これを回避するには当該設定を無効にしてください。
- Windows 版アプリケーションで本機に USB 接続した操作機器を標準 (UMT) モードで使用する場合、内田洋行の e-黒板アシスタント、Deldea アシスタント、Windows のスクリーンキーボードなど一部のアプリケーションを操作できません。これらは、wivia アプリケーションを管理者として実行することで操作できます。<sup>38</sup>
- 18.本機に USB 接続したタッチパネルディスプレイから、「通常(UMT)」モードで投影中の PC をリ モート操作する際は、PC 側からは、1本指での操作はマウスでの左クリックやドラッグとして、2 本指での操作は1本指でのタップ、プレスやスワイプ等として、3本指での操作は2本指でのタッ プやピンチ等として認識されます<sup>39</sup>。タッチ操作をそのまま PC に送るには、USB シミュレーショ ン(UoIP) モードをお使いください。
- 19.本機が表示するツールバーや司会者操作パネルは、Windows版アプリケーションからUSBシミュレーションモードでの投影中は操作できません。これらの表示中にUSBシミュレーションモードでの投影が開始された場合は、その投影が停止されるまで閉じられなくなります。
- 20. 本機に接続された表示装置と投影元の PC のデスクトップの縦横比が異なる場合、USB シミュレーションモードでの投影中の投影画面での操作は、正しい座標に反映されません。USB シミュレーションモードを使用する場合は、PC のデスクトップを表示装置と合うように設定してください。
- 電子黒板機能等を搭載したタッチパネルディスプレイ、インタラクティブユニット、プロジェクタ ー等の装置を本機に USB 接続する場合、一部の機器では電子黒板やタッチパネルの機能が正常に 動作しないことがあります。
- 本機の電源を切るかネットワークから切断した後、しばらくの間、本機が Mac 版アプリケーションや iOS・Android 版 wivia Presenter から自動検出され続けることがあります。これは、本機の自動検出に使用される mDNS プロトコルに対する各 OS の仕様によるものです。

ら新しいバージョンをインストールしてください。

<sup>&</sup>lt;sup>38</sup> 一般ユーザー権限で運用する必要がある場合は、修正パッチ(差換用の wivia.exe)を提供可能ですのでお問い合わせください。

<sup>&</sup>lt;sup>39</sup> 2 本指以上での操作では、最初にタッチされた指の座標は無視され、2 本目以降の指の座標が PC に送られます。

- 23. アプリケーションが一度本機を自動検出して機器リストに表示すると、その後本機の電源が切られたりネットワークから切断されても、機器リストに表示され続けます<sup>40</sup>。自動検出後に消失した機器を機器リストに反映するには、アプリケーションを一度終了して再度起動してください。
- 24. wivia 5 は動画ファイルのストリーミング再生機能に非対応です。このため、wivia Presenter で wivia 5 に対して動画ファイル再生の操作を行うとエラーメッセージが表示されます。
- 25. バージョン 5.3 以上のアプリケーションは、wivia 3・4 への動画ファイル再生機能で選択できる ファイル形式は MP4 のみです。以前のバージョンで他の形式の動画ファイルを使用していた場合 は、形式の変換が必要となります。
- 26. wivia Presenter の OneDrive 参照機能は、個人用の Microsoft アカウントを使用する OneDrive にのみ対応しています。組織の Office 365 アカウントを使用する OneDrive for Business には接続できません。
- 27. iOS 端末・Android 端末からの画面投影機能は、AirPlay・Google Cast との完全な互換性を保証す るものではありません。OS や端末の仕様・性能、または AirPlay・Google Cast の技術仕様の事情 により意図する動作とならない可能性がある旨、あらかじめご了承ください。
- 28. 本機を既存ネットワークに接続し、iOS 端末・Android 端末からの画面投影機能を使用する場合、 ネットワーク構成や端末の条件によっては、端末が本機と同一サブネットに接続されていても、 mDNS で本機を検出できず、接続できないことがあります。この場合は、本機のアクセスポイント 機能を有効にするなど、ネットワーク構成の変更をご検討ください。
- 29. iOS 端末の AirPlay 機能で本機に接続する際、本機のパスコードが固定の場合は、同一端末での 2 回目以降の接続時にはパスコードが求められません。これは iOS の仕様によるものです。
- 30. Android 端末等から Google Cast 機能で本機に接続する際は、本機にパスコードが設定されていて もパスコードが求められません。これは Google Cast の仕様によるものです。
- 31. Android 端末等から Google Cast 機能で本機に接続するには、本機がネットワークに接続され、時 刻が NTP サーバーと同期されている必要があります。<sup>41</sup>
- 32. 本機のアクセスポイント機能の設定値が、帯域幅が 40MHz または 80MHz に設定され、チャンネ ルが手動設定になっている場合、セカンダリーチャンネルは、手動設定で選択されたチャンネルの 前か後ろのいずれかが自動的に使用されます。
- 33. 本体設定のネットワーク設定ページのホスト IP アドレスの値には"192.168.10.x"(x は任意の値)
  を設定できません。<sup>42</sup>

<sup>40</sup> 同一サブネット内にあるお気に入りの機器の場合は、機器名の文字色が(グレーにならず)黒のままで表示され続けます。

<sup>&</sup>lt;sup>41</sup> 本機をスタンドアロンで動作させる場合、起動後にいずれかの端末から wivia アプリケーションか wivia Presenter で接続すると、 本機に当該端末の時刻を同期できます。ただし、この方法で同期される時刻には、日本標準時と1時間の差が生じます。

<sup>&</sup>lt;sup>42</sup> ホスト IP アドレスは NAT モードの際の本機のアクセスポイント機能の配下にのみ使用するアドレスのため、他のアドレスを設定してください。なお、WAN 側 IP アドレスの値には"192.168.10.x"を設定できます。

- 34. 本機の MAC アドレスフィルタリング機能は、未登録端末が本機のアクセスポイント機能に接続した際に DHCP での IP アドレスの割り当てを行わない形で動作します。端末に適切な固定 IP アドレスが設定されている場合や、本機がブリッジモードに設定されており既存ネットワーク上に DHCP サーバーが設置されている場合は、別の方法による認証をご検討ください。
- 35. 本体設定の画面解像度が「自動検出」の場合、表示装置によっては、解像度が適切に認識されず映像の位置や縦横比が不自然に出力されることがあります。この場合は「自動検出」以外の値に設定してください。
- 36. 本体設定の画面解像度を「800p(WXGA)」または「1200p(WUXGA)」に設定しても、表示装置の解像度と一致しない場合は 720p または 1080p の映像信号が出力されることがあります。
- 37. HDCP に非対応の表示装置や、表示装置・音響装置によっては、本機から出力された HDMI 信号を 正しく検出・入出力しないことがあります。
- 38. 司会者の操作でロックを有効にしている間は、一般の利用者からの投影開始操作が制限されます。 ただし、このとき投影中の利用者が投影を一時停止・停止する操作は制限されません。
- 39.本機の省電力設定が「高省電力スタンバイ」であっても、本機のスタンバイボタンが押された際は 標準スタンバイの状態に移行します。設定された待ち時間が経過すると、高省電力スタンバイの状態に移行します。
- 40. Atom や Celeron などの処理性能が比較的低い端末では、投影時の CPU 負荷が高くなり、映像や 音声に遅延やノイズが発生しやすいことがあります。他のアプリケーションを終了したり、端末の 解像度を下げたり、音声の送信をミュートすることで負荷が軽減することがありますが、効果が得 られない場合は他の端末をお使いください。
- 41. アプリケーションや関連ドライバーなどを本機のWebページやサポートWebサイトからダウンロードする際、「安全性を確認できないファイル」などの警告が表示され、ダウンロードや実行の中止を推奨されることがあります。処理を許可するか、セキュリティ設定を変更することで続行できますが、組織の指針等に従ってご対応ください。
- 42. USB メモリーへのアクセスがブロックされている環境で USB メモリーからアプリケーションを実 行するには、セキュリティ設定の例外への登録などの設定変更が必要となります。組織のシステム 管理者にお問い合わせください。
- 43. シンクライアント環境や仮想環境では、アプリケーションが正しく動作しないことや、環境のクラ ッシュなどの問題を発生させることがあり、動作はサポートされません。これらの環境での使用を ご検討の場合は、あらかじめお客様により動作検証を行いご判断ください。
- 44. 一部のポップアップ画面やオーバーレイ要素、コピーガードの施された映像などは、本機から正しく投影されないことがあります。また、一部のアプリケーションは、wivia アプリケーションの画面投影機能と併用できないことがあります。

- 45. 本機はネットワーク経由で映像・音声等のデータを通信するため、通信データの遅延や不達、また は端末や本機がネットワークから瞬断ないしローミングした場合などに、進行中の投影が停止した り、接続中の端末が切断されることがあります。
- 46. 本機の問題調査ログは可読形式ではないため、お客様が直接閲覧・活用することはできません。また、弊社から当該ログのご提供を依頼する場合も、ログの内容の開示はいたしかねます。
- 47.本機は24時間365日の連続動作を保証していません。使用終了後は本機の電源を切ってください。 やむを得ず連続動作させる場合や、高所や閉所などに設置する場合は、中間スイッチを設けるなど、 必要な際に利用者が電源を再投入できる方法で設置してください。
- 48. 高い信頼性・安全性が必要な用途には、あらかじめフェールセーフ設計や冗長設計などの措置を講じたうえで本機を使用してください。また、人命に関わる装置や社会インフラなど、極めて高い信頼性・安全性が必要な用途には、本機を使用しないでください。

以上